

2021年 7月 28日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号機 ポーリング柱状図データ書換えの
原因調査分析に係る公開会合（第2回）における確認事項

1. 審査資料の作成及び確認等の作業量に対して、期間、要員との関係で適正であったのか（資源のマネジメントが適切に行われていたのか）という点について、具体的な定性的あるいは定量的な組織面の評価から示すこと。
2. 調査会社と当社間で授受する柱状図等のデータについて、以下の点を示すこと。
 - (1) 東海第二発電所と敦賀発電所の具体的な相違点
 - (2) 調査会社からの受領するデータの形式（PDF等の形式）
3. 問題点の抽出方法及び類似点の纏め方について、論理性及び一貫性のある纏め方になるように再検討し、背後要因分析及び組織的要因の分析を行うこと。
（例：問題点となる事象16より、問題点⑥の方が詳細まで記載されている。問題点⑧の問題点となる事象37の繋がりが、原因と結果が同じではない。等）
4. 審査資料への記載内容に関する意思決定について、重要度に応じた意思決定（重要な事項か軽微な事項か）として、当時の事実関係とあるべき姿を検討し、背後要因分析及び組織要因の分析につなげること。
5. 審査資料の誤記について認識した時点で不適合と認知していないことについて、本来の不適合管理としてあるべき姿から問題点を検討し、背後要因分析及び組織要因の分析につなげること。
6. 長期にわたって、設計開発プロセスに関する問題点として不適合として認識されず、改善の機会を失っていた点について、セルフアセスメントのあるべき姿を検討し、背後要因分析及び組織要因の分析につなげること。
（マネジメントレビューへのインプットにあたっての業務プロセスレビューのあり方等）

以 上